

既存事業の見直し 評価書(R5 実績)

令和 6 年度

令和 6 年度

既存事業の見直し 評価書(R5実績)

作成・更新日
令和 6 年 10 月 3 日

1. 基本情報

行事・イベント名	わんぱく教室			所管課	朝来支所
事務事業名	生涯学習センター運営管理事業（朝来）			事業開始年度	S56
総合計画体系	1. 「やりたい」につながる多様な学びで、未来をつくる「人」を育む 4. まちにも活きる生涯学習・スポーツの推進				
主体	市	(正式名称)		実施方法	市が直接実施
年間実施回数	11	参加者数	年間 243 人(一回あたり 24 人)		

2. 事業概要

対象	小学校 5、6 年生			開催単位	旧町域
目的	主に朝来地域で活動し、地域を知り、自然に親しみながらたくましい体と心を養う。				
実施内容 特記事項	青少年育成事業として、合併前から継続している事業で43年目。 5月から3月の月1回、主に野外活動を行う。 (市の財源とは別に、県から「緑の少年団地区活動助成金」として383,883円を受けている。)				
出席	市長	副市長	当日出役の職員数	4 人(内所管課 4 人)	

3. 事業費等

節区分		説明等	R5決算額
事業費内訳	報償費	講師謝礼	178,500
事業費総額			178,500
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	
	一般財源		178,500
財源総額			178,500

4. 課題

現在認識している課題	自然体験や観察に経験豊かな指導者が少ないこと。
見通し、対応策等	市役所や学校関係者、卒業生等に声掛けを行い、新たな指導者の発掘をしている。

5. 分析

検討基準の項目チェック	☒ 朝来市内で類似した行事・イベント等が開催されている。 →「6」の回答必須
	☐ 初期の開催目的を達成している。
	☐ 朝来市が実施主体でなくてもよい。
	☐ 委託を検討する方が、効果的・効果的に市民サービスの向上が見込める。
	☒ 委託又は市民協働の場とすることで、自主的な市民活動の活性化が期待できる。
	☐ 朝来市が事務局を受け持って関与していたが、団体等が育成され、単体での開催が見込める。
	☐ 事業等の対象者が限定的である。
	☐ 効果が不明または必要性が希薄である。
	☐ 朝来市が関与する理由が希薄である。
	☐ 移管又は朝来市の撤退が可能ではあるが、補助金等を別途検討する必要がある。
☐ その他	
()	
※該当する項目はすべて ☒ をいれる。	

6. 市内(他地域)で類似する行事・イベント等の実施方法(名称・主体・財源等)

別紙参照

7. 1次評価

評価		評価理由
☐	存続	活動内容は類似団体とよく似ており、朝来地域自治協議会に委託等を検討することも可能ですが、計画から実施までの事務量を考えると朝来支所が担当すべきと考えます。
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

8. 外部評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

9. 2次評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

令和 6 年度

既存事業の見直し 評価書(R5実績)

作成・更新日
令和 6 年 10 月 3 日

1. 基本情報

行事・イベント名	岩津ねぎ植付・収穫体験			所管課	朝来支所
事務事業名	朝来地域交流・活性化事業			事業開始年度	H17
総合計画体系	3. 多様なつながり・交流を育み、地域力をより高める				
	16. まちを応援する関係人口の創出				
主体	市	(正式名称)		実施方法	市が直接実施
年間実施回数	4	参加者数	年間 120	人(一回あたり	30 人)

2. 事業概要

対象	中川小学校3年生と山口小学校1～6年生			開催単位	旧町域
目的	地元特産品の岩津ねぎを理解してもらうため、苗付け、収穫体験を行う。				
実施内容 特記事項	中川小学校と地元農家等と連携し、岩津ねぎの植付け、収穫体験を実施。				
	山口小学校と地元農家等（羽渕老人クラブ）と連携し、岩津ねぎの植付け、収穫体験を実施。				
出席	市長	副市長	当日出役の職員数	1 人(内所管課	1 人)

3. 事業費等

節区分		説明等	R5決算額
事業費内訳	報償費	事業協力者謝礼	50,000
	需用費	岩津ねぎ苗	20,400
	委託料	圃場管理委託料	60,000
事業費総額			130,400
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	
	一般財源		130,400
財源総額			130,400

4. 課題

現在認識している課題	朝来支所が学校と指導していただく農業者との間をつながなくても、直接調整されてもよいこと。
見通し、対応策等	市・学校・農業者の役割を整理し、実施方法を検討する。

5. 分析

検討基準の項目チェック	☒ 朝来市内で類似した行事・イベント等が開催されている。 →「6」の回答必須
	☐ 初期の開催目的を達成している。
	☒ 朝来市が実施主体でなくてもよい。
	☐ 委託を検討する方が、効果的・効果的に市民サービスの向上が見込める。
	☐ 委託又は市民協働の場とすることで、自主的な市民活動の活性化が期待できる。
	☐ 朝来市が事務局を受け持って関与していたが、団体等が育成され、単体での開催が見込める。
	☐ 事業等の対象者が限定的である。
	☐ 効果が不明または必要性が希薄である。
	☒ 朝来市が関与する理由が希薄である。
	☐ 移管又は朝来市の撤退が可能ではあるが、補助金等を別途検討する必要がある。
☐ その他	
()	
※該当する項目はすべて ☒ をいれる。	

6. 市内(他地域)で類似する行事・イベント等の実施方法(名称・主体・財源等)

市内で農業体験に取り組んでいる小学校
 生野：田植え、稲刈り 財源：市環境体験事業
 糸井：田植え、稲刈り 財源：市ドリームアップ事業
 大蔵：田植え、稲刈り、さつまいも、落花生、赤じそ 財源：自治協により負担なし
 枚田：バケツ稲、稲刈り、さつまいも、大豆 財源：稲（JA）、さつまいも（市ドリームアップ事業）、大豆（地元協力）
 東河：田植え、稲刈り、さつまいも、野菜 財源：稲（PTA）、さつまいも・野菜（JA）
 竹田：田植え、稲刈り、さつまいも、大豆 財源：稲（地元協力）、さつまいも（JA）、大豆（市環境体験事業）
 梁瀬：田植え、稲刈り、さつまいも、大豆、大根 財源：市ドリームアップ事業
 中川：岩津ねぎ（植付・収穫）、茶摘み 財源：本事業
 山口：岩津ねぎ（植付・収穫・種取）、さつまいも、葉牡丹 財源：本事業他市ドリームアップ事業等

7. 1次評価

評価	評価理由
☐ 存続	岩津ねぎについて、朝来地域の特産品であることを小学生の時期から学ぶことで郷土愛を深めることができるので引き続き実施する。 支所は、2者を取り持つ役目をする。
☐ 縮小・統合	
☐ 委託	
☐ 移管・撤退	
☐ 廃止	

8. 外部評価

評価	評価理由
☐ 存続	
☐ 縮小・統合	
☐ 委託	
☐ 移管・撤退	
☐ 廃止	

9. 2次評価

評価	評価理由
☐ 存続	
☐ 縮小・統合	
☐ 委託	
☐ 移管・撤退	
☐ 廃止	

令和 6 年度

既存事業の見直し 評価書(R5実績)

作成・更新日
令和 6 年 10 月 6 日

1. 基本情報

行事・イベント名	出会いサポート事業			所管課	山東支所
事務事業名	出会いサポート事業			事業開始年度	H19
総合計画体系	3. 多様なつながり・交流を育み、地域力をより高める				
	15. まちの仲間になる移住定住の推進				
主体	市	(正式名称)		実施方法	市が直接実施
年間実施回数	7	参加者数	年間 107	人(一回あたり	15 人)

2. 事業概要

対象	未婚男女（市内在住・在勤は問わない）			開催単位	市全域
目的	未婚男女の出会いの場づくり。朝来市のPRを兼ねた婚活イベントの開催。				
実施内容 特記事項	令和5年度はイベント4回、セミナー3回、計7回の開催。				
出席	市長	副市長	当日出役の職員数	3 人(内所管課	3 人)

3. 事業費等

節区分		説明等	R5決算額
事業費内訳	委託料	出会いサポート事業委託料	2, 103, 303
事業費総額			2, 103, 303
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	過疎地域持続的発展特別事業債
		その他	
	一般財源		3, 303
財源総額			2, 103, 303

4. 課題

現在認識している課題	毎回、マッチングは成立するが交際へと発展しにくいのが現状であり、婚活コーディネーター等による参加者に対するイベント後のフォローの充実を図る必要がある。
見通し、対応策等	・ 定住促進、人口政策として寄与できる魅力ある事業として継続させていくため、効果的な参加啓発と参加者ニーズに応じた内容の見直しを図っていくと共に、R6年度については、市民協働課（あさご暮らし応援室）所管による大規模な婚活イベント実施に当たり協力する。 ・ 市内観光地、施設及びイベント等を活用し、積極的に市の魅力を発信していく。

5. 分析

検討基準の項目チェック	☐ 朝来市内で類似した行事・イベント等が開催されている。 →「6」の回答必須
	☒ 初期の開催目的を達成している。
	☒ 朝来市が実施主体でなくてもよい。
	☐ 委託を検討する方が、効果的・効果的に市民サービスの向上が見込める。
	☐ 委託又は市民協働の場とすることで、自主的な市民活動の活性化が期待できる。
	☐ 朝来市が事務局を受け持って関与していたが、団体等が育成され、単体での開催が見込める。
	☒ 事業等の対象者が限定的である。
	☐ 効果が不明または必要性が希薄である。
	☐ 朝来市が関与する理由が希薄である。
	☐ 移管又は朝来市の撤退が可能ではあるが、補助金等を別途検討する必要がある。
☐ その他	
()	
※該当する項目はすべて ☒ をいれる。	

6. 市内(他地域)で類似する行事・イベント等の実施方法(名称・主体・財源等)

○朝来市社会福祉協議会

(1) 毎月1回結婚相談会の開催
(※但馬管内の社会福祉協議会において「全但結婚相談連絡協議会」という結婚希望の男女の出会いをサポートするネットワークがあります。)

(2) あさご交流Caféの開催 (不定期開催の婚活イベント)

7. 1次評価

評価		評価理由
	存続	令和6年度において、市民協働課が主担当となり、出会いの場の創出と交流促進を図ることを目的に、未婚男女を対象とした大規模婚活イベントが実施されました。従前の少人数でのイベントではなく、市内外の多くの方に参加をいただくことによりマッチング数(成婚者数)の増となり、市内への移住及び定住の促進に繋がることが期待される。
	縮小・統合	
	委託	
○	移管・撤退	
	廃止	

8. 外部評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

9. 2次評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

令和 6 年度

既存事業の見直し 評価書(R5実績)

作成・更新日
令和 6 年 10 月 6 日

1. 基本情報

行事・イベント名	元旦マラソン・ウォーキング			所管課	山東支所
事務事業名	山東支所一般管理事業			事業開始年度	
総合計画体系	7. その他				
主体	市	(正式名称)		実施方法	市が直接実施
年間実施回数	1	参加者数	年間 200 人(一回あたり 200 人)		

2. 事業概要

対象	市内在住・在勤者他			開催単位	市全域
目的	毎年元旦に、1 年を心身ともに健やかに過ごすことを願いつつ運動を通じた地域交流の場として開催する。				
実施内容 特記事項	マラソンの部：3 km ウォーキングの部：1.5km スポーツ推進員・各ジュニアスポーツ団体の協力有り				
出席	市長	○ 副市長	当日出役の職員数	7 人(内所管課 7 人)	

3. 事業費等

節区分		説明等	R5決算額
事業費内訳	報償費	事業等参加者報償費（マラソン等参加賞）	31, 200
事業費総額			31, 200
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	
	一般財源		31, 200
財源総額			31, 200

4. 課題

現在認識している課題	・当日出役スタッフが山東支所職員とスポーツ推進員（山東地区）のみ。 安全安心なイベントにするために、救護員（保健師等）の配置が必要。
見通し、対応策等	・当日出役スタッフに、救護員（保健師等）の配置を検討。

5. 分析

検討基準の項目チェック	☒ 朝来市内で類似した行事・イベント等が開催されている。 →「6」の回答必須
	☒ 初期の開催目的を達成している。
	☐ 朝来市が実施主体でなくてもよい。
	☐ 委託を検討する方が、効果的・効果的に市民サービスの向上が見込める。
	☐ 委託又は市民協働の場とすることで、自主的な市民活動の活性化が期待できる。
	☐ 朝来市が事務局を受け持って関与していたが、団体等が育成され、単体での開催が見込める。
	☐ 事業等の対象者が限定的である。
	☐ 効果が不明または必要性が希薄である。
	☐ 朝来市が関与する理由が希薄である。
	☐ 移管又は朝来市の撤退が可能ではあるが、補助金等を別途検討する必要がある。
☐ その他	
()	
※該当する項目はすべて ☒ をいれる。	

6. 市内(他地域)で類似する行事・イベント等の実施方法(名称・主体・財源等)

・朝来市マラソン大会（主体：朝来市体育協会）

7. 1次評価

評価		評価理由
☐	存続	長年、山東地域の元日の恒例イベントとして「元旦マラソン・ウォーキング」が開催され、地元スポーツクラブ（少年野球・サッカー・バスケットボール）所属の小学生や帰省中の方等を中心に200名程度の参加をいただき開催するなど大変好評を得ていることから、今後においても事業の継続を希望します。
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

8. 外部評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

9. 2次評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

令和 6 年度

既存事業の見直し 評価書(R5実績)

作成・更新日
令和 6 年 10 月 3 日

1. 基本情報

行事・イベント名	オープンガーデン			所管課	朝来支所
事務事業名	花づくり運動推進事業			事業開始年度	H15
総合計画体系	5. 市民の暮らしを支える安全・安心な都市基盤を持続する				
	24. 自然を守り暮らしと産業を創造する土地利用の推進				
主体	市	(正式名称)		実施方法	市が直接実施
年間実施回数	1	参加者数	年間 2500 人(一回あたり 2500 人)		

2. 事業概要

対象	市民・市外来訪者			開催単位	市全域
目的	5月に個人宅等の庭を一般に公開するイベント。 安らぎと潤いのある美しい景観を創出し、魅力あるまちづくりを推進する。				
実施内容 特記事項	・5月下旬に花づくりをされている個人やグループの庭を一定期間公開。 ・庭主は毎年10月ごろから募集している。 ・寄せ植え体験を地域住民・園児・児童を対象に実施。完成品をオープンガーデン期間に併せて実施し、イベントを盛り上げている。 ・寄せ植えは製作者に最後まで世話をしてもらい、花づくりを意識してもらうきっかけづくりとしている。 ・オープンガーデンに訪れる方の多くは京阪神や市外の方であるため、観光要素を含んだイベントと言える。				
出席	市長	副市長	当日出役の職員数	2 人(内所管課 2 人)	

3. 事業費等

節区分		説明等	R5決算額
事業費内訳	報償費	寄せ植えイベント講師謝礼	45,500
	旅費	他市町視察研修旅費	2,200
	需用費	チラシ印刷代、花・苗・肥料代等	1,604,384
	役務費	チラシ折込手数料	37,070
	使用料及び賃借料	有料道路通行料	2,400
事業費総額			1,691,554
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	
	一般財源		1,691,554
財源総額			1,691,554

4. 課題

現在認識している課題	・庭を開放すると、防犯上や庭の案内などで期間中に家を留守にできず、参加してもらうことが難しい。 ・庭主の高齢化で体力的に庭を維持することが困難となってきた。 ・庭づくりには手間がかかるため、仕事をしながらの参加が難しい。 ・上手くできなかった場合の不安から、庭を公開することにストレスを感じる庭主がいる。
見通し、対応策等	・全市的な取り組みとするため、引き続き効果的な募集と個々への声掛けを行うとともに、個人の庭だけでなく、企業や団体にも参加を呼び掛ける。 ・庭主が感じるストレスなどを緩和する手段を検討し、適切な事業環境づくりを行っていく。(例、柔軟な期間設定、庭の規模)

5. 分析

検討基準の項目チェック	☒ 朝来市内で類似した行事・イベント等が開催されている。 →「6」の回答必須
	☐ 初期の開催目的を達成している。
	☒ 朝来市が実施主体でなくてもよい。
	☒ 委託を検討する方が、効果的・効果的に市民サービスの向上が見込める。
	☐ 委託又は市民協働の場とすることで、自主的な市民活動の活性化が期待できる。
	☒ 朝来市が事務局を受け持って関与していたが、団体等が育成され、単体での開催が見込める。
	☐ 事業等の対象者が限定的である。
	☐ 効果が不明または必要性が希薄である。
	☐ 朝来市が関与する理由が希薄である。
	☐ 移管又は朝来市の撤退が可能ではあるが、補助金等を別途検討する必要がある。
☐ その他	
()	
※該当する項目はすべて ☒ をいれる。	

6. 市内(他地域)で類似する行事・イベント等の実施方法(名称・主体・財源等)

・市内でオープンガーデンは他に実施されていない。 ・市民協働課では、県の緑化資材事業により区や個人のグループを対象に公園、駐車場などに芝生、苗木、多年草を植生するため資材を配布している。 ・都市政策課では、県の県民まちなみ緑化事業により区や個人のグループを対象に公園、駐車場などに芝生、苗木、多年草を植生するため資材を配布している。 ・県では、県花であるのじぎくを配布している。
--

7. 1次評価

評価		評価理由
☐	存続	オープンガーデンは、課題を持ちながらも、全市的な取り組みとし、美しい景観の朝来市とするために存続とする。 寄せ植えは、新しい世代に対する花づくりへの意識付けとして必要と考えます。
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

8. 外部評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

9. 2次評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

令和 6 年度

既存事業の見直し 評価書(R5実績)

作成・更新日
令和 6 年 10 月 8 日

1. 基本情報

行事・イベント名	朝来市ハイキングウォーキング			所管課	生涯学習課
事務事業名	社会体育事業			事業開始年度	R6
総合計画体系	1. 「やりたい」につながる多様な学びで、未来をつくる「人」を育む 4. まちにも活きる生涯学習・スポーツの推進				
主体	市	(正式名称)		実施方法	市が直接実施
年間実施回数	1	参加者数	年間 20	人(一回あたり	20 人)

2. 事業概要

対象	市民	開催単位	市全域
目的	スポーツを通じた健康増進と市民の交流を図る。		
実施内容 特記事項	市民の健康増進、家族や友人と一緒にスポーツを始めるきっかけとなることを目的として、令和6年度から新規開催。 令和6年度は年間実施回数1回、参加者数は20人を想定。		
出席	市長	副市長	当日出役の職員数 3 人(内所管課 3 人)

3. 事業費等

節区分		説明等	R6予算額
事業費内訳	報償費	事業協力者謝礼	
	需用費	消耗品費	
事業費総額			0
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	
	一般財源		
財源総額			0

4. 課題

現在認識している課題	令和6年度から新規開催
見通し、対応策等	令和6年度から新規開催

5. 分析

検討基準の項目チェック	☐ 朝来市内で類似した行事・イベント等が開催されている。 →「6」の回答必須
	☐ 初期の開催目的を達成している。
	☐ 朝来市が実施主体でなくてもよい。
	☐ 委託を検討する方が、効果的・効果的に市民サービスの向上が見込める。
	☐ 委託又は市民協働の場とすることで、自主的な市民活動の活性化が期待できる。
	☐ 朝来市が事務局を受け持って関与していたが、団体等が育成され、単体での開催が見込める。
	☐ 事業等の対象者が限定的である。
	☐ 効果が不明または必要性が希薄である。
	☐ 朝来市が関与する理由が希薄である。
	☐ 移管又は朝来市の撤退が可能ではあるが、補助金等を別途検討する必要がある。
☐ その他	
()	
※該当する項目はすべて☑をいれる。	

6. 市内(他地域)で類似する行事・イベント等の実施方法(名称・主体・財源等)

無し

7. 1次評価

評価		評価理由
○	存続	令和6年度から新規開催
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

8. 外部評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

9. 2次評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

令和 6 年度

既存事業の見直し 評価書(R5実績)

作成・更新日

令和 6 年 10 月 8 日

1. 基本情報

行事・イベント名	朝来市民交流ソフトボール大会			所管課	生涯学習課
事務事業名	社会体育事業			事業開始年度	H17
総合計画体系	1. 「やりたい」につながる多様な学びで、未来をつくる「人」を育む				
	4. まちにも活きる生涯学習・スポーツの推進				
主体	市	(正式名称)		実施方法	市が直接実施
年間実施回数	2	参加者数	年間 135	人(一回あたり	人)

2. 事業概要

対象	市民	開催単位	市全域
目的	ソフトボールを通じた市民の親睦と交流を図る。		
実施内容 特記事項	夏季大会(6月)と秋季大会(10月)として2回開催。 募集数は各大会(6月・10月)ともに8チーム(先着順) 令和5年度は夏季大会は2チームの募集があったが28人での練習試合となった。秋季大会では8チーム107人が参加、リーグ方式等により開催。 参加料は2,000円/チーム		
出席	市長	○ 副市長	当日出役の職員数 2 人(内所管課 2 人)

3. 事業費等

節区分		説明等	R5決算額
事業費内訳	報償費	式典等記念品	11,070
	需用費	消耗品費	2,112
事業費総額			13,182
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	社会体育事業参加料
	一般財源		▲ 2,818
財源総額			13,182

4. 課題

現在認識している課題	令和5年度までは支所単位の大会を予選会と位置付け、市大会として開催していたが、出場チームの減少により見直しを行い、令和6年度から夏季大会として開催している。
見通し、対応策等	令和5年度に見直しを行っている。

5. 分析

検討基準の項目チェック	☒ 朝来市内で類似した行事・イベント等が開催されている。 →「6」の回答必須
	☐ 初期の開催目的を達成している。
	☐ 朝来市が実施主体でなくてもよい。
	☐ 委託を検討する方が、効果的・効果的に市民サービスの向上が見込める。
	☐ 委託又は市民協働の場とすることで、自主的な市民活動の活性化が期待できる。
	☐ 朝来市が事務局を受け持って関与していたが、団体等が育成され、単体での開催が見込める。
	☐ 事業等の対象者が限定的である。
	☐ 効果が不明または必要性が希薄である。
	☐ 朝来市が関与する理由が希薄である。
	☐ 移管又は朝来市の撤退が可能ではあるが、補助金等を別途検討する必要がある。
☐ その他	
()	
※該当する項目はすべて☑をいれる。	

6. 市内(他地域)で類似する行事・イベント等の実施方法(名称・主体・財源等)

・生野地区ソフトボール大会（市生野支所） ・朝来地区ソフトボール大会（市朝来支所） ・和田山地区ソフトボール大会（市生涯学習課） ・朝来市民地区選抜ソフトボール大会（市生涯学習課）は夏季大会として新規開催

7. 1次評価

評価		評価理由
☐	存続	令和5年度に見直しを行っており、気軽に参加できる種目として引き続き本事業を進めていく。
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

8. 外部評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

9. 2次評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

令和 6 年度

既存事業の見直し 評価書(R5実績)

作成・更新日
令和 6 年 10 月 8 日

1. 基本情報

行事・イベント名	朝来市長杯バレーボール大会			所管課	生涯学習課
事務事業名	社会体育事業			事業開始年度	H17
総合計画体系	1. 「やりたい」につながる多様な学びで、未来をつくる「人」を育む 4. まちにも活きる生涯学習・スポーツの推進				
主体	市	(正式名称)		実施方法	市が直接実施
年間実施回数	1	参加者数	年間 144	人(一回あたり	144 人)

2. 事業概要

対象	市内外住民	開催単位	その他
目的	スポーツを通じた健康づくりと市内外各地域バレーボールチームとの交流を図る。		
実施内容 特記事項	6 月に開催、令和 5 年度は17チーム144人が参加。 合併前の和田山町長杯バレーボール大会を市で引き継いで開催。 リーグ方式(男子の部：上級・中級・初級、女子の部：上級・初級)により開催。 参加料は2,000円/チーム		
出席	市長 ○ 副市長	当日出役の職員数	2 人(内所管課 2 人)

3. 事業費等

節区分		説明等	R5決算額
事業費内訳	報償費	式典等記念品、事業協力者謝礼	83,300
	需用費	消耗品費	7,200
事業費総額			90,500
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	社会体育事業参加料
	一般財源		56,500
財源総額			90,500

4. 課題

現在認識している課題	参加チームのレベルに違いがあり、市バレーボール協会と調整し対戦リーグを決定している。
見通し、対応策等	市バレーボール協会と連携を図りながら本事業を進めていく。

5. 分析

検討基準の項目チェック	☒ 朝来市内で類似した行事・イベント等が開催されている。 →「6」の回答必須
	☐ 初期の開催目的を達成している。
	☐ 朝来市が実施主体でなくてもよい。
	☐ 委託を検討する方が、効果的・効果的に市民サービスの向上が見込める。
	☐ 委託又は市民協働の場とすることで、自主的な市民活動の活性化が期待できる。
	☐ 朝来市が事務局を受け持って関与していたが、団体等が育成され、単体での開催が見込める。
	☐ 事業等の対象者が限定的である。
	☐ 効果が不明または必要性が希薄である。
	☐ 朝来市が関与する理由が希薄である。
	☐ 移管又は朝来市の撤退が可能ではあるが、補助金等を別途検討する必要がある。
☐ その他	
()	
※該当する項目はすべて ☒ をいれる。	

6. 市内(他地域)で類似する行事・イベント等の実施方法(名称・主体・財源等)

・生野地区女子バレーボール大会（市生野支所） ・朝来地区バレーボール春季・秋季大会（市朝来支所） ・朝来市体育協会長杯バレーボール大会（市体育協会） ・朝来市家庭婦人バレーボール大会（市体育協会） ・朝来市混合バレーボール大会（市体育協会）
--

7. 1次評価

評価		評価理由
☐	存続	参加チームも多く、気軽に参加できる種目として引き続き本事業を進めていく。
☐	縮小・統合	
☐	委託	
☐	移管・撤退	
☐	廃止	

8. 外部評価

評価		評価理由
☐	存続	
☐	縮小・統合	
☐	委託	
☐	移管・撤退	
☐	廃止	

9. 2次評価

評価		評価理由
☐	存続	
☐	縮小・統合	
☐	委託	
☐	移管・撤退	
☐	廃止	

令和 6 年度

既存事業の見直し 評価書(R5実績)

作成・更新日
令和 6 年 10 月 8 日

1. 基本情報

行事・イベント名	朝来市スポレク大会			所管課	生涯学習課
事務事業名	社会体育事業			事業開始年度	H22
総合計画体系	1. 「やりたい」につながる多様な学びで、未来をつくる「人」を育む				
	4. まちにも活きる生涯学習・スポーツの推進				
主体	市	(正式名称)		実施方法	市が直接実施
年間実施回数	1	参加者数	年間 118	人(一回あたり	118 人)

2. 事業概要

対象	市民(小学生以上)			開催単位	市全域
目的	レクリエーションスポーツを通して市民の健康づくりと体力向上を図り、ふれあいと交流を深める。				
実施内容 特記事項	ニュースポーツの祭典として、スポーツ推進委員会が市独自の種目を考案。毎年11月に開催。募集人数は150人、うち団体競技は15組程度(先着順)。 ○個人競技5種目(ジュニア低学年・ジュニア高学年・一般男子・一般女子) ○団体競技4種目(小学生・一般) 令和5年度は参加者数118人、うち団体競技10組 ※参加者は個人競技と団体競技で重複あり。参加費は無料。				
出席	市長	○ 副市長	当日出役の職員数	5	人(内所管課 5 人)

3. 事業費等

節区分		説明等	R5決算額
事業費内訳	報償費	式典等記念品、事業協力者謝礼	97, 335
	需用費	消耗品費、食糧費	175, 101
事業費総額			272, 436
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	
	一般財源		272, 436
財源総額			272, 436

4. 課題

現在認識している課題	無し
見通し、対応策等	市スポーツ推進委員会と連携を図りながら本事業を進めていく。

5. 分析

検討基準の項目チェック	☐ 朝来市内で類似した行事・イベント等が開催されている。 →「6」の回答必須
	☐ 初期の開催目的を達成している。
	☐ 朝来市が実施主体でなくてもよい。
	☐ 委託を検討する方が、効果的・効果的に市民サービスの向上が見込める。
	☐ 委託又は市民協働の場とすることで、自主的な市民活動の活性化が期待できる。
	☐ 朝来市が事務局を受け持って関与していたが、団体等が育成され、単体での開催が見込める。
	☐ 事業等の対象者が限定的である。
	☐ 効果が不明または必要性が希薄である。
	☐ 朝来市が関与する理由が希薄である。
	☐ 移管又は朝来市の撤退が可能ではあるが、補助金等を別途検討する必要がある。
☐ その他	
()	
※該当する項目はすべて☑をいれる。	

6. 市内(他地域)で類似する行事・イベント等の実施方法(名称・主体・財源等)

無し

7. 1次評価

評価		評価理由
○	存続	ニュースポーツの祭典であり、気軽に参加できる種目として引き続き本事業を進めていく。
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

8. 外部評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

9. 2次評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

令和 6 年度

既存事業の見直し 評価書(R5実績)

作成・更新日
令和 6 年 10 月 8 日

1. 基本情報

行事・イベント名	朝来市アジャタ大会			所管課	生涯学習課
事務事業名	社会体育事業			事業開始年度	R6
総合計画体系	1. 「やりたい」につながる多様な学びで、未来をつくる「人」を育む				
	4. まちにも活きる生涯学習・スポーツの推進				
主体	市	(正式名称)		実施方法	市が直接実施
年間実施回数	1	参加者数	年間 24	人(一回あたり	24 人)

2. 事業概要

対象	市民			開催単位	市全域
目的	スポーツを通じた健康増進と市民の交流を図る。				
実施内容 特記事項	ニュースポーツの「アジャタ(玉入れ)」の大会として、「但馬まるごと感動市」のステージイベントとして令和6年度から新規開催。 参加者(体験者)数は24人を想定。 ※見学者(感動市のステージ観覧者)50人程を想定。				
出席	市長	副市長	当日出役の職員数	3 人(内所管課	3 人)

3. 事業費等

節区分		説明等	R6予算額
事業費内訳	報償費	事業協力者謝礼	
	需用費	消耗品費	
事業費総額			0
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	
	一般財源		
財源総額			0

4. 課題

現在認識している課題	令和6年度から新規開催
見通し、対応策等	令和6年度から新規開催

5. 分析

検討基準の項目チェック	☐ 朝来市内で類似した行事・イベント等が開催されている。 →「6」の回答必須
	☐ 初期の開催目的を達成している。
	☐ 朝来市が実施主体でなくてもよい。
	☐ 委託を検討する方が、効果的・効果的に市民サービスの向上が見込める。
	☐ 委託又は市民協働の場とすることで、自主的な市民活動の活性化が期待できる。
	☐ 朝来市が事務局を受け持って関与していたが、団体等が育成され、単体での開催が見込める。
	☐ 事業等の対象者が限定的である。
	☐ 効果が不明または必要性が希薄である。
	☐ 朝来市が関与する理由が希薄である。
	☐ 移管又は朝来市の撤退が可能ではあるが、補助金等を別途検討する必要がある。
☐ その他	
()	
※該当する項目はすべて☑をいれる。	

6. 市内(他地域)で類似する行事・イベント等の実施方法(名称・主体・財源等)

無し

7. 1次評価

評価		評価理由
☐	存続	令和6年度から新規開催
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

8. 外部評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

9. 2次評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

令和 6 年度

既存事業の見直し 評価書(R5実績)

作成・更新日

令和 6 年 10 月 8 日

1. 基本情報

行事・イベント名	朝来市軟式野球大会			所管課	生涯学習課
事務事業名	社会体育事業			事業開始年度	H17
総合計画体系	1. 「やりたい」につながる多様な学びで、未来をつくる「人」を育む				
	4. まちにも活きる生涯学習・スポーツの推進				
主体	市	(正式名称)		実施方法	市が直接実施
年間実施回数	1	参加者数	年間 46	人(一回あたり	46 人)

2. 事業概要

対象	市民	開催単位	市全域
目的	軟式野球を通じた市民一体感の醸成やコミュニティ意識の形成、スポーツの振興を図る。		
実施内容 特記事項	毎年10月に開催。募集数は6チーム(先着順)。 合併前の大会を市で引き継いで開催。 令和5年度は4チーム46人が参加。 トーナメント方式等。参加料は3,000円/チーム。		
出席	市長	○ 副市長	当日出役の職員数 2 人(内所管課 2 人)

3. 事業費等

節区分		説明等	R5決算額
事業費内訳	報償費	式典等記念品、事業協力者謝礼	28,357
	需用費	食糧費	2,160
事業費総額			30,517
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	社会体育事業参加料
	一般財源		18,517
財源総額			30,517

4. 課題

現在認識している課題	参加チームが減少している。
見通し、対応策等	市内企業向けに周知しており、新規参加チームを取り込む工夫を行いながら本事業を進めていく。

5. 分析

検討基準の項目チェック	☐ 朝来市内で類似した行事・イベント等が開催されている。 →「6」の回答必須
	☐ 初期の開催目的を達成している。
	☐ 朝来市が実施主体でなくてもよい。
	☐ 委託を検討する方が、効果的・効果的に市民サービスの向上が見込める。
	☐ 委託又は市民協働の場とすることで、自主的な市民活動の活性化が期待できる。
	☐ 朝来市が事務局を受け持って関与していたが、団体等が育成され、単体での開催が見込める。
	☐ 事業等の対象者が限定的である。
	☐ 効果が不明または必要性が希薄である。
	☐ 朝来市が関与する理由が希薄である。
	☐ 移管又は朝来市の撤退が可能ではあるが、補助金等を別途検討する必要がある。
☐ その他	
()	
※該当する項目はすべて☑をいれる。	

6. 市内(他地域)で類似する行事・イベント等の実施方法(名称・主体・財源等)

無し

7. 1次評価

評価		評価理由
☐	存続	軟式野球の大会がなく、新規参加チームを取り込む工夫を行いながら引き続き本事業を進めていく。
☐	縮小・統合	
☐	委託	
☐	移管・撤退	
☐	廃止	

8. 外部評価

評価		評価理由
☐	存続	
☐	縮小・統合	
☐	委託	
☐	移管・撤退	
☐	廃止	

9. 2次評価

評価		評価理由
☐	存続	
☐	縮小・統合	
☐	委託	
☐	移管・撤退	
☐	廃止	

令和 6 年度

既存事業の見直し 評価書(R5実績)

作成・更新日

令和 6 年 10 月 8 日

1. 基本情報

行事・イベント名	朝来市民スキースノーボード教室			所管課	生涯学習課
事務事業名	社会体育事業			事業開始年度	H17
総合計画体系	1. 「やりたい」につながる多様な学びで、未来をつくる「人」を育む				
	4. まちにも活きる生涯学習・スポーツの推進				
主体	市	(正式名称)		実施方法	市が直接実施
年間実施回数	1	参加者数	年間 67	人(一回あたり	67 人)

2. 事業概要

対象	市民(小学生以上)			開催単位	市全域
目的	スポーツを通じた健康増進と市民の交流を図る。				
実施内容 特記事項	鉢伏高原スキー場において毎年1月に開催。募集数は120人(先着順)。 令和5年度は雪不足により中止。令和4年度は67人が参加。 申込時の技術レベル等によりクラス・班を決定。 参加料は2,000円/人(別途用具レンタル料有り)				
出席	市長	副市長	当日出役の職員数	3 人(内所管課	3 人)

3. 事業費等

節区分		説明等	R5決算額
事業費内訳	報償費	事業協力者謝礼	
	需用費	消耗品費	9,990
	使用料及び賃借料	自動車借上料	133,760
事業費総額			143,750
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	
	一般財源		143,750
財源総額			143,750

4. 課題

現在認識している課題	実施年の天候(積雪量)により、開催が左右される。
見通し、対応策等	市スキー協会と連携を図りながら本事業を進めていく。

5. 分析

検討基準の項目チェック	☐ 朝来市内で類似した行事・イベント等が開催されている。 →「6」の回答必須
	☐ 初期の開催目的を達成している。
	☐ 朝来市が実施主体でなくてもよい。
	☐ 委託を検討する方が、効果的・効果的に市民サービスの向上が見込める。
	☐ 委託又は市民協働の場とすることで、自主的な市民活動の活性化が期待できる。
	☐ 朝来市が事務局を受け持って関与していたが、団体等が育成され、単体での開催が見込める。
	☐ 事業等の対象者が限定的である。
	☐ 効果が不明または必要性が希薄である。
	☐ 朝来市が関与する理由が希薄である。
	☐ 移管又は朝来市の撤退が可能ではあるが、補助金等を別途検討する必要がある。
☐ その他	
()	
※該当する項目はすべて☑をいれる。	

6. 市内(他地域)で類似する行事・イベント等の実施方法(名称・主体・財源等)

無し

7. 1次評価

評価		評価理由
☐	存続	参加者も多く、冬期間に気軽に参加できる種目として引き続き本事業を進めていく。
☐	縮小・統合	
☐	委託	
☐	移管・撤退	
☐	廃止	

8. 外部評価

評価		評価理由
☐	存続	
☐	縮小・統合	
☐	委託	
☐	移管・撤退	
☐	廃止	

9. 2次評価

評価		評価理由
☐	存続	
☐	縮小・統合	
☐	委託	
☐	移管・撤退	
☐	廃止	

令和 6 年度

既存事業の見直し 評価書(R5実績)

作成・更新日

令和 6 年 10 月 6 日

1. 基本情報

行事・イベント名	ニュースポーツ体験会			所管課	山東支所
事務事業名	山東支所一般管理事業			事業開始年度	R6
総合計画体系	7. その他				
主体	市	(正式名称)		実施方法	市が直接実施
年間実施回数	1	参加者数	年間 50	人(一回あたり	50 人)

2. 事業概要

対象	山東町在住・在勤者及び山東町出身者	開催単位	旧町域
目的	誰もが参加しやすいスポーツ機会を創出し、市民の健康増進及び交流等を目的に開催する。		
実施内容 特記事項	山東地区ソフトボール大会の代替事業として令和6年度から開催。 スポーツ推進員の協力有り。 令和6年度は年間実施回数1回、参加者数は50人を想定。		
出席	市長	副市長	当日出役の職員数 4 人(内所管課 4 人)

3. 事業費等

節区分		説明等	R6予算額
事業費内訳	—	—	—
事業費総額			0
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	
	一般財源		
財源総額			0

4. 課題

現在認識している課題	・従前実施していた「山東地区ソフトボール大会」の代替事業として、誰でも気軽に参加できるニュースポーツ「モルック」の体験会を実施するがニュースポーツであることから、いかにして幅広い年代の方に体験いただき、普及推進に繋げていけるかが課題である。
見通し、対応策等	・11月2日(土)に、「さんとうモルック交流会」と題した体験会を開催し、モルックの魅力・楽しさ等の普及宣伝に努める。 ・梁瀬地域自治協議会においてもモルック大会を開催するなど、ニュースポーツの普及に努めていることから連携を深め、普及推進に努める。

5. 分析

検討基準の項目チェック	☒ 朝来市内で類似した行事・イベント等が開催されている。 →「6」の回答必須
	☐ 初期の開催目的を達成している。
	☐ 朝来市が実施主体でなくてもよい。
	☐ 委託を検討する方が、効果的・効果的に市民サービスの向上が見込める。
	☐ 委託又は市民協働の場とすることで、自主的な市民活動の活性化が期待できる。
	☐ 朝来市が事務局を受け持って関与していたが、団体等が育成され、単体での開催が見込める。
	☐ 事業等の対象者が限定的である。
	☐ 効果が不明または必要性が希薄である。
	☐ 朝来市が関与する理由が希薄である。
	☐ 移管又は朝来市の撤退が可能ではあるが、補助金等を別途検討する必要がある。
☐ その他	
()	
※該当する項目はすべて ☒ をいれる。	

6. 市内(他地域)で類似する行事・イベント等の実施方法(名称・主体・財源等)

・あさご市スポレク大会（主体：朝来市） ・朝来市アジャタ大会（主体：朝来市）

7. 1次評価

評価		評価理由
☐	存続	幅広い年齢層の方が気軽に参加でき、市民の健康増進及び交流等にも繋がること、また、ニュースポーツでもあることから、モルックの魅力を発信し、山東町内に限らず市内全域に普及することになれば、朝来市のPRに繋げることが期待できる。
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

8. 外部評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

9. 2次評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

令和 6 年度

既存事業の見直し 評価書(R5実績)

作成・更新日

令和 6 年 10 月 3 日

1. 基本情報

行事・イベント名	朝来地区ソフトボール大会			所管課	朝来支所
事務事業名	朝来支所一般管理事業			事業開始年度	H17
総合計画体系	7. その他				
主体	市	(正式名称)		実施方法	市が直接実施
年間実施回数	1	参加者数	年間 30	人(一回あたり	30 人)

2. 事業概要

対象	地域住民			開催単位		旧町域			
目的	地域住民の親睦を図るため開催する。								
実施内容 特記事項	毎年5月に実施。 市民交流ソフトボール大会の地区予選の位置づけ。 参加チームが少ないため、令和5年度は中止した。 なお、令和4年度は年間で1回実施され、30人が参加した。								
出席	市長	副市長	当日出役の職員数		1	人(内所管課		1	人)

3. 事業費等

節区分		説明等	R5決算額
事業費内訳	需用費	ソフトボール（賞品）	0
事業費総額			0
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	
	一般財源		0
財源総額			0

4. 課題

現在認識している課題	参加チーム数が少なく、大会が成立しない。
見通し、対応策等	R6の市民交流ソフトボール大会では、地区予選をしないこととしている。

5. 分析

検討基準の項目チェック	☒ 朝来市内で類似した行事・イベント等が開催されている。 →「6」の回答必須
	☐ 初期の開催目的を達成している。
	☐ 朝来市が実施主体でなくてもよい。
	☐ 委託を検討する方が、効果的・効果的に市民サービスの向上が見込める。
	☐ 委託又は市民協働の場とすることで、自主的な市民活動の活性化が期待できる。
	☐ 朝来市が事務局を受け持って関与していたが、団体等が育成され、単体での開催が見込める。
	☐ 事業等の対象者が限定的である。
	☐ 効果が不明または必要性が希薄である。
	☐ 朝来市が関与する理由が希薄である。
	☐ 移管又は朝来市の撤退が可能ではあるが、補助金等を別途検討する必要がある。
☐ その他	
()	
※該当する項目はすべて ☒ をいれる。	

6. 市内(他地域)で類似する行事・イベント等の実施方法(名称・主体・財源等)

生涯学習課による市民交流ソフトボール大会秋季大会

7. 1次評価

評価	評価理由
☐ 存続	地域限定では参加チーム数が少なく、市全体の市民交流ソフトボール大会があることから支所事業としては廃止する。
☐ 縮小・統合	
☐ 委託	
☐ 移管・撤退	
☐ 廃止	

8. 外部評価

評価	評価理由
☐ 存続	
☐ 縮小・統合	
☐ 委託	
☐ 移管・撤退	
☐ 廃止	

9. 2次評価

評価	評価理由
☐ 存続	
☐ 縮小・統合	
☐ 委託	
☐ 移管・撤退	
☐ 廃止	

令和 6 年度

既存事業の見直し 評価書(R5実績)

作成・更新日
令和 6 年 10 月 3 日

1. 基本情報

行事・イベント名	朝来地区バレーボール大会			所管課	朝来支所
事務事業名	朝来支所一般管理事業			事業開始年度	H17
総合計画体系	7. その他				
主体	市	(正式名称)		実施方法	市が直接実施
年間実施回数	2	参加者数	年間 100	人(一回あたり	人)

2. 事業概要

対象	地域住民及び参加希望者	開催単位	旧町域
目的	地域住民の親睦を図るため開催する。		
実施内容 特記事項	春季大会と秋季大会の年2回開催。 朝来地域及び地域外、さらに市外からも参加されている。 令和5年度は春季大会4チーム30人、秋季大会10チーム70人が参加した。		
出席	市長	副市長	当日出役の職員数 1 人(内所管課 1 人)

3. 事業費等

節区分		説明等		R5決算額
事業費内訳	需用費		バレーボール（賞品）	24, 800
事業費総額				24, 800
財源内訳	特定財源	国庫支出金		
		県支出金		
		地方債		
		その他		
	一般財源			24, 800
財源総額				24, 800

4. 課題

現在認識している課題	バレーボールチームのつながりで、地域外からも多く参加いただいている。
見通し、対応策等	会場が2つあり、運営協力もできることから継続して開催できる。

5. 分析

検討基準の項目チェック	☒ 朝来市内で類似した行事・イベント等が開催されている。 →「7」の回答必須
	☐ 初期の開催目的を達成している。
	☒ 朝来市が実施主体でなくてもよい。
	☐ 委託を検討する方が、効果的・効果的に市民サービスの向上が見込める。
	☒ 委託又は市民協働の場とすることで、自主的な市民活動の活性化が期待できる。
	☐ 朝来市が事務局を受け持って関与していたが、団体等が育成され、単体での開催が見込める。
	☐ 事業等の対象者が限定的である。
	☐ 効果が不明または必要性が希薄である。
	☐ 朝来市が関与する理由が希薄である。
	☐ 移管又は朝来市の撤退が可能ではあるが、補助金等を別途検討する必要がある。
☐ その他	
()	
※該当する項目はすべて ☒ をいれる。	

6. 市内(他地域)で類似する行事・イベント等の実施方法(名称・主体・財源等)

生涯学習課による市長杯バレーボール大会

7. 1次評価

評価		評価理由
☐	存続	市大会もあるが、参加者のニーズに応えるため、継続して開催する。
☐	縮小・統合	
☐	委託	
☐	移管・撤退	
☐	廃止	

8. 外部評価

評価		評価理由
☐	存続	
☐	縮小・統合	
☐	委託	
☐	移管・撤退	
☐	廃止	

9. 2次評価

評価		評価理由
☐	存続	
☐	縮小・統合	
☐	委託	
☐	移管・撤退	
☐	廃止	

令和 6 年度

既存事業の見直し 評価書(R5実績)

作成・更新日

令和 6 年 10 月 8 日

1. 基本情報

行事・イベント名	生野地区ソフトボール大会			所管課	生野支所
事務事業名	生野支所一般管理事業			事業開始年度	H17
総合計画体系	7. その他				
主体	市	(正式名称)		実施方法	市が直接実施
年間実施回数	1	参加者数	年間 81	人(一回あたり	81 人)

2. 事業概要

対象	市民			開催単位	旧町域
目的	市民の幅広い参加を促し、地域・世代間等の交流と健康増進を図るとともに、住民のスポーツへの関心を高め、生野地区のスポーツ振興を図る。				
実施内容 特記事項	毎年5月に開催しているが、令和5年度は雨天中止のため未実施。 令和4年度では5月15日に開催し、8チーム81人が参加した。 令和4年度の事業費はソフトボール代9,900円(一般財源)のみ。				
出席	市長	副市長	当日出役の職員数	3 人(内所管課	3 人)

3. 事業費等

節区分		説明等		R5決算額
事業費内訳				
事業費総額				0
財源内訳	特定財源	国庫支出金		
		県支出金		
		地方債		
		その他		
	一般財源			
財源総額				0

4. 課題

現在認識している課題	・人口減少及び高齢化により、参加者数は減少傾向となっている。
見通し、対応策等	・地区対抗を基本に大会を行っていたが、人口減少に伴い参加チームも減少していくことが見込まれる。 ・他地区との合同チームや「ふるさと枠」生野出身者が出場可能な枠を設定しながら、参加者数を増やす為、要綱等を柔軟に変更しながら開催している。

令和 6 年度

既存事業の見直し 評価書(R5実績)

作成・更新日

令和 6 年 10 月 8 日

1. 基本情報

行事・イベント名	生野地区女子バレーボール大会			所管課	生野支所
事務事業名	生野支所一般管理事業			事業開始年度	H17
総合計画体系	7. その他				
主体	市	(正式名称)		実施方法	市が直接実施
年間実施回数	1	参加者数	年間 50	人(一回あたり	50 人)

2. 事業概要

対象	市民			開催単位	旧町域
目的	市民等の幅広い参加を促し、地域・世代間等の交流と健康増進を図るとともに、住民のスポーツへの関心を高め、生野地区のスポーツ振興を図る。				
実施内容 特記事項	令和5年度は6月に開催した。 参加チームは4チーム。 参加者数は選手以外に監督やマネージャー、体育委員、コーチを含む。 令和5年度は中学生・高校生の部活動に声をかけ参加を募ったが、他大会と被ったため不参加。				
出席	市長	副市長	当日出役の職員数	3 人(内所管課	3 人)

3. 事業費等

節区分		説明等	R5決算額
事業費内訳	報償費	優勝したチームの副賞	6,000
事業費総額			6,000
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	
	一般財源		6,000
財源総額			6,000

4. 課題

現在認識している課題	・人口減少及び高齢化により、参加チーム数が減少傾向となっている。
見通し、対応策等	R4に中学生、高校生チームの参加枠を設定するとともにR6には大会要項の一部見直しを実施し参加を促した。(令和6年度は チーム参加) また、地区対抗という競技性にこだわらず、地域コミュニティーや生涯スポーツの観点から、出場資格等要綱を柔軟に変更しながら、参加チームの増加に取り組む。

5. 分析

検討基準の項目チェック	☒ 朝来市内で類似した行事・イベント等が開催されている。 →「6」の回答必須
	☐ 初期の開催目的を達成している。
	☒ 朝来市が実施主体でなくてもよい。
	☐ 委託を検討する方が、効果的・効果的に市民サービスの向上が見込める。
	☒ 委託又は市民協働の場とすることで、自主的な市民活動の活性化が期待できる。
	☐ 朝来市が事務局を受け持って関与していたが、団体等が育成され、単体での開催が見込める。
	☐ 事業等の対象者が限定的である。
	☐ 効果が不明または必要性が希薄である。
	☐ 朝来市が関与する理由が希薄である。
	☐ 移管又は朝来市の撤退が可能ではあるが、補助金等を別途検討する必要がある。
☒ その他	
(地域コミュニティの向上と地域の活性化が見込める。)	
※該当する項目はすべて☑をいれる。	

6. 市内(他地域)で類似する行事・イベント等の実施方法(名称・主体・財源等)

朝来市長杯バレーボール大会	生涯学習課
朝来地区バレーボール大会	朝来支所

7. 1次評価

評価	評価理由
○ 存続	人口減少が急速に進む中で、自治会のスポーツ大会などの廃止が進み、地域住民がスポーツに触れる機会が減少している。その中で、支所主催のスポーツ大会は、体育委員と実施内容等を協議し開催している。当該大会については、参加者数は減少しているものの、類似大会は競技性が高く地域住民が望む大会ではないと思慮している。大会を行う事による地域コミュニティの活性化や多世代にわたり地域住民がスポーツに触れる機会の創出の観点からは、支所として大変重要であると思慮しており、現段階においては、各区体育委員と協議し、より参加しやすい大会へと要綱を変更しながら継続実施していくことが必要と評価した。
縮小・統合	
委託	
移管・撤退	
廃止	

8. 外部評価

評価	評価理由
存続	
縮小・統合	
委託	
移管・撤退	
廃止	

9. 2次評価

評価	評価理由
存続	
縮小・統合	
委託	
移管・撤退	
廃止	

令和 6 年度

既存事業の見直し 評価書(R5実績)

作成・更新日

令和 6 年 10 月 8 日

1. 基本情報

行事・イベント名	生野地区卓球大会			所管課	生野支所
事務事業名	生野支所一般管理事業			事業開始年度	H17
総合計画体系	7. その他				
主体	市	(正式名称)		実施方法	市が直接実施
年間実施回数	1	参加者数	年間 70	人(一回あたり	70 人)

2. 事業概要

対象	市民			開催単位	旧町域
目的	市民（生野地区）の幅広い参加を促し、地域・世代間等の交流と健康増進を図るとともに、住民のスポーツへの関心を高め、生野地区のスポーツ振興を図る。				
実施内容 特記事項	令和5年卓球大会は11月に開催。 個人戦に50人が参加した。 団体戦は41人が参加し、シングルス4回、ダブルス1回で勝敗を決定した。 ※参加者は重複あり(合計参加者数は70人)				
出席	市長	副市長	当日出役の職員数	5 人(内所管課	5 人)

3. 事業費等

節区分		説明等	R5決算額
事業費内訳	報償費	優勝・準優勝のメダル費用	19,000
事業費総額			19,000
財源内訳	特定財源	国庫支出金	
		県支出金	
		地方債	
		その他	
	一般財源		19,000
財源総額			19,000

4. 課題

現在認識している課題	・人口減少及び高齢化により、参加者数は減少傾向となっている。
見通し、対応策等	・個人戦や団体戦など比較的少人数で、多世代にわたり楽しめる大会であり、継続して実施する。

5. 分析

検討基準の項目チェック	☐ 朝来市内で類似した行事・イベント等が開催されている。 →「6」の回答必須
	☐ 初期の開催目的を達成している。
	☒ 朝来市が実施主体でなくてもよい。
	☐ 委託を検討する方が、効果的・効果的に市民サービスの向上が見込める。
	☒ 委託又は市民協働の場とすることで、自主的な市民活動の活性化が期待できる。
	☐ 朝来市が事務局を受け持って関与していたが、団体等が育成され、単体での開催が見込める。
	☐ 事業等の対象者が限定的である。
	☐ 効果が不明または必要性が希薄である。
	☐ 朝来市が関与する理由が希薄である。
	☐ 移管又は朝来市の撤退が可能ではあるが、補助金等を別途検討する必要がある。
☒ その他	
(地域コミュニティの向上と地域の活性化が見込める。)	
※該当する項目はすべて☑をいれる。	

6. 市内(他地域)で類似する行事・イベント等の実施方法(名称・主体・財源等)

無

7. 1次評価

評価		評価理由
○	存続	人口減少が急速に進む中で、自治会のスポーツ大会などの廃止が進み、地域住民がスポーツに触れる機会が減少している。その中で、支所主催のスポーツ大会は、体育委員と実施内容等を協議し開催している。当該大会については、市内において類似した大会はなく、また、一定のニーズがある。また、出場者のみでなく、大会や練習等を通じ、子供をはじめ多世代にわたりスポーツに触れる機会となり、スポーツ振興による健康増進や希薄となりつつある地域コミュニティの活性化に繋がるものであり継続が必要と評価した。
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

8. 外部評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	

9. 2次評価

評価		評価理由
	存続	
	縮小・統合	
	委託	
	移管・撤退	
	廃止	